

## No.118 会社訪問

代表取締役社長 野口 琢史氏



## 株式会社東洋高压

会社プロフィール

代表者：代表取締役社長・工学博士 野口 琢史

広島本社・工場：〒733-0002 広島県広島市西区楠木町2-1-22

TEL：082-237-6255

東京支店：〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町2-7-13

TEL：03-6667-0452

八本松工場：〒739-0141 広島県東広島市八本松町飯田507-18

創業：昭和49年(1974年)4月20日

設立：昭和56年(1981年)4月9日

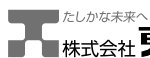
資本金：1000万円

事業内容：高温高压化学装置の設計・製作

化学機械、理化学機械の設計・製造など

URL：<http://www.toyokoatsu.co.jp/>

聞き手：佐藤 文俊(広報副委員長) 岡田 康弘(事務局) 取材・編集：クリエイティブ・レイ(株)



たしかな未来へ

株式会社

東洋高压

「一品一様」のモノづくりで研究開発を支える  
高温・高压技術のプロフェッショナル

— 御社の主な事業内容や主力製品についてお聞かせいただけますか。

弊社は高温・高压の研究設備を主に製作しております。装置はお客様の要望を基にオーダーメイドで一つひとつ作り上げています。圧力、温度、容量は綿密に連携していますが、それぞれの最大設計条件として、圧力は600 MPa(メガパスカル)まで、温度は900℃まで、容量は2m<sup>3</sup>(リューベ)までの製品を製作しています。

圧力について簡単にご説明しますと、私たちが生活する地上の圧力：1気圧が0.1 MPaです。ちなみに海底10,000 mのマリアナ海溝の圧力は約100 MPaとなります。

高压と言われる範囲は10気圧すなわち1 MPa以上からと規定されており、日本国内の多くのメーカー様は1 MPaから100 MPa未満の範囲でさまざまな理化学機器を製作しています。しかし、その範囲内に対応した装置だけではお客様が求めているニーズに応えることができないこともあります。また、その範囲を外れ

た条件で研究をしたいといったニーズなども多くございます。特に研究機関などでは高温・高压の条件下で独自の理論で研究を進める際に、他メーカー様の装置の仕様にはない性能が求められることが多くあります。弊社では、そういったニーズに応える装置をオーダーメイドという形で製作しています。高温・高压の条件を作り出す研究は危険を伴うということもあり、装置の相談や依頼などは多くのお客様から寄せられています。

弊社の装置が導入される研究分野は多岐にわたります。その中でも化学分野が一番多く、特に新素材の開発や最近ではバイオマス関連などの環境分野の実験設備として高温・高压の装置が求められることも多くなってきました。また、宇宙、深海などの研究設備の協力のほか、圧力とともに地熱といった熱も発生する深い地中の環境を再現するための装置などあらゆる研究のお手伝いをしてまいりました。

オーダーメイドの製品以外では、高压技術を食品分野に応用した『まるごとエキス』超高压加工処理装置

## 経営資料

があります。弊社の性質上、オーダーメイド装置がメインということもあり、お客様に提供する装置は1台というのが基本ですが、汎用機として開発した『まるごとエキス』は2008年に販売して以来、多くの反響をいただき、販売以来300台以上の売り上げを記録したヒット商品となっています。

高い圧力を食品にかけることで、短時間での発酵が促進される等の食品の物性変化が起こります。

高圧装置を作る会社が「東洋高圧」であるのに対し、「超臨界技術研究所」というグループ会社では、設備を持っていないお客様や、高圧装置を導入したくても、コスト面で導入が困難なお客様に対して「超臨界技術研究所」の設備を利用いただき、そこでお客様が困っている問題を解決に向けた実験やテストを行ってまいります。よい成果が得られて、納得していただければ弊社の装置の導入を検討していただく、ということを目的としています。

また、同じくグループ会社である「東洋サブリ」の装置を利用し、弊社オリジナルの製品としてサプリメントなどの開発も手掛けています。こうした事業を行うことを意外に思うかもしれません。先ほども申し上げたように弊社では1台または少量のみをオーダーメイドで生産する形をとってきました。しかし、その反面、先代の社長でもある私の父は一般向けの製品を大量生産して消費者に向けて供給することに憧れのような気持ちを抱いていたそうです。そういった経緯を経て、「一品一様」の装置とは異なる形で高圧技術を活かした一般消費者向けの製品を取り扱うことになっていきました。

— 御社の創業の経緯についてお聞かせいただけますか。

創業者でもあり、先代の社長でもある私の父はもともと、大阪のバルブメーカーに勤めていました。昭和40年代頃、そのメーカーに潜水艦の部品を特注してほしいという依頼があったそうです。メーカーとしては、特注は受けられないという姿勢だったため、そういった案件は断っていたそう



野口会長

なのですが、当時は特注の要望が多く、父はそれらを請け負えば商売として成り立つのではないかと考え、大阪から広島に移り、会社を興しました。独立時は父ひとりでしたが、技術者3名を伴い、会社を設立しました。ちなみにその3名は今もなお現役で活躍しています。

創業当初は、バルブや高圧用の部品などを提供していましたが、80年代ころから日本が技術力をつけていくにつれ、以前のようにアメリカから技術が移管されなくなっていました。特注品の依頼も次第に増えていったことから、それを機にオーダーメイドに特化した装置の開発にシフトしていきました。それ以降多様な分野のニーズに応え、今日に至っています。

弊社は、まずお客様のニーズをお聞きして、「出来ません」と断ることをせずに、問題解決に向けてお客様にご提案をすることを信条としています。

まるごとエキス TFS-20  
2Lタイプまるごとエキス  
50Lタイプまるごとエキス TFS-3000  
300Lタイプ

## 経営資料

— 経営者として印象に残っている出来事や喜びを感じたことなどがあれば、お聞かせください。

小さい容器といった簡単な装置を依頼された案件があったのですが、その後、次第にサイズが大きくなり、高い機能を備えた仕様になり、継続してお仕事を受けていくうちに大型の設備にまで広がっていきましました。誠意を持ってご要望に応え続けるうちにお客様との信頼関係を築くことが出来まし、これからもお客様のビジョンを実現していくお手伝いをさせていただければと思っています。お客様から「東洋高压さんに知り合えて良かった」とか「実験でよい結果が出た」といったお言葉をいただくと、弊社の製品が役に立てたのだと嬉しく思いますし、経営者として励みにもなります。

— これまで経営上もっとも困難だと感じになった時期や出来事があれば、お聞かせいただけますか。

私は大学で機械工学を学んだ後、父の会社である東洋高压に入社、入社してすぐに技術の勉強と視野を広げるため一年ほどアメリカにある提携会社に勤めた経験があります。そして、2011年12月、31歳の時に社長に就任しました。

当初、先代の社長は65歳になったら退任すると言っていたのですが、突然一年早く64歳の時に社長を退くことを告げられました。当時の私にはまだ社長に就任するという心の準備が充分に出来ていなかったこともあり、たいへん戸惑ったことを覚えています。

社長に就任してまだ6年目ということもあり、おかげさまで経営が苦しい時期は今のところ経験していませんが、中国に設備を輸出した事案では大変な目に遭いました。中国のお客様に爆発の試験用の設備を導入していただいたのですが、導入後の運用方法に

問題があり、設備が破損してしまい、修理依頼の連絡がありました。すぐに修理部品を集めて中国へ送ろうとしたところ、満額の輸入関税を支払わなければならない事態に陥ってしまいました。修理にかかる費用は50万円ほどしか掛からないのですが、結果的に部品を送るのに約150万円。これでは商売として成り立ちませんから、修理部品を引き上げようとしたところ、一年間は戻ってこないという返事が返ってくる始末でした。最終的には弊社とお客様とその間に立つ代理店とで300万円の支払いを折半することで決着しました。装置を入れるまではいい関係を構築していたお客様だったのですが、現地での修理を済ませた後、お付き合いは解消させていただくことになりました。

こうした経験を踏まえ、現在は海外のお客様とのビジネスは間に立つ代理店がしっかりしている場合に限りお取り引きさせていただくようにしています。

— 御社の経営理念や経営方針などをお聞かせいただけますか。

「研究者の発想を装置に」という理念の下、弊社は経営活動を行っています。それとは別に、個人的なメッセージとして「一つひとつ、一步一步進んでいきましょう」と社員たちに伝えています。どんな簡単な案件でも常に挑戦を積み重ねていくことで一年後にはその一歩が大きな成長につながると思います。社員ひとり一人がそういった心掛けで日々の仕事に取り組んでもらいたいと思っています。

— 御社の現在の課題、今後の事業目標などをお聞かせいただけますか。

どこの中小企業でも同じことが言えるかと思えます



- ・2006年 第1回元気なモノ作り中小企業300社に選定
- ・2007年 第2回ものづくり日本大賞優秀賞を受賞
- ・2009年 日本経済団体連合会 御手洗会長御一考が来社

- ・2011年 弊社創業者が藍綬褒章受章
- ・2012年 第4回ものづくり日本大賞優秀賞を受賞



## 経営資料

が、弊社でも人材、とりわけ工学系の技術者の確保が一番の課題となっています。近年は大手の企業が学生を積極的に採用しているということもあり、優秀な人材の確保には苦勞しています。

案件ごとにひとつずつ製品を提供していく「一品一様」のモノづくりが弊社の特徴ですが、こうしたモノづくりは技術者のノウハウや経験というものが大きく影響します。将来に向け、長年積み重ねられた技術をどのように次の世代へ継承していくか、ということもこれからの重要な課題として捉えています。

—— 野口社長の座右の銘、愛読書、敬愛する歴史上の人物、心掛けているモットーなどがあれば、お聞かせください。

座右の銘のようなものではなく、私が大切にしていることは、後悔をしないことです。人生の中で重要な判断が迫られた局面において後になって後悔しないか、どうかを何か行動をおこすときの判断の基準にしています。

また、社会に出てから気づいたこととして、どんなに些細な経験でも無駄なものなどなく、すべての経験が価値のあるものだと思っています。たとえば買い物ひとつをとっても、その商品にどんな技術が使われているか、どんな工夫が凝らされているかといったことを意識したり、観察したりすることを習慣にすることで、新たな発見に気づかされることもあります。こうした日々のちょっとした経験の積み重ねが仕事に生きてくることもありますし、自分の中で大きな価値として積み重なっていくと信じています。

愛読書についてですが、歴史物が好きで三国志や水滸伝、史記などの古代中国を舞台にした歴史小説をよく読んできました。三国志に出てくる蜀の軍師・諸葛亮孔明とその後を引き継いだ姜維が好きな人物です。

日本の戦国時代の小説なども読んできましたが、最近では古事記を読みたいと思うようになってきました。

尊敬している人物は18世紀のアメリカの政治家のフランクリン・ベンジャミンです。彼は政治家でもあり、雷が電気だと明らかにした発明家でもありました。優れた技術者でありながら、アメリカ独立にも大きな影響を与えたことから「アメリカ合衆国建国の父のひとり」とも讃えられています。

—— 野口社長の趣味や、休日に楽しんでいることがあれば、お聞かせください。

休日はもっぱら子どもたちと遊んでいます。子どもは上から8歳の男の子、4歳の女の子、3歳の女の子の3人兄妹です。先日もみんなで川遊びや山の中にある公園に出掛けてきました。

—— 最後に当協会に対してご意見・ご要望などがありましたらお願いいたします。

東洋高圧という会社は、業界内でまだまだ知名度が低いと自覚しています。協会のさまざまな活動や企画を通じて今後、弊社の知名度アップにつなげていければと期待しています。

東京の協会ということもあり、普段私が参加している中国地方の協会よりも規模の大きい協会だと思いません。私は広島の本社にいらっしゃる方が多いため、東京支店の者がお世話になるかと思えます。その際は、どうぞよろしくお願いたします。



本社・工場



東京支店



八本松工場